

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



上野駅(台東区)

西徳寺の予定

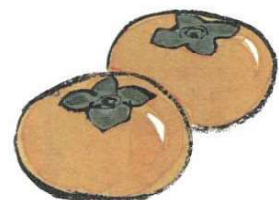
11月

- 2日(土)・3日(日) 報恩講
3日(日) 午後2時 御親修
開基400年・本堂建立100年記念法要
13日(水) 婦人会食事会
16日(土) 午後2時 定例間法会
16日(土) 午後5時半 同行会「和讃」に学ぶ
法話：大谷顧問
17日(日) 午後2時半 城北ブロック会間法会
場所：西日暮里「一合」
21日(木)～28日(木) 本山御正忌報恩講
23日(土) 午後6時半 燈虹塾演奏会

12月

- 7日(土) 午後2時 総代会
14日(土) 午後5時半 同行会「和讃」に学ぶ
法話：山崎住職
18日(水) 午後1時半 婦人会間法会
21日(土) 午後2時 定例間法会
31日(火) 午後3時 歳暮法要

※予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。



えこおファイル在庫あります。

11月の山門の言葉

無菌状態に 慣れ過ぎ みんなあちこち 弱ってる

B'z『さまよえる蒼い弾丸』

身の回りに無菌・抗菌・滅菌が溢れている昨今の日本。清潔という点では世界トップクラスである。健康を脅かす病原を抹殺し、安心を求める。コロナに怯えた経験がそれに拍車を掛けるだろう。

しかし本当に恐ろしいのは人間同士の無菌状態ではないだろうか。日頃の人間関係に止まらず、人種や国家レベルで、純化という無菌状態が進んでいるように感じる。それは紛れもない排他ではないだろうか。皮肉なことに排除するほど問題がこじれる。なぜならお互いに排除し合うからである。果たして無菌状態に平和はあるのだろうか？

ジャコウネコからとれるシベツトという成分がある。これはとても臭いそうだが。しかし香水には欠かせない。不思議なことに少量混ぜることで、洗練された香水が出来るという。

またワクチンは、病原体の一部を摂取することにより、免疫システムが侵入してくる病原体に備えるという考え方である。ワクチンについては賛否両論あるようだが、取り入れることにより対応する力をつけるということだろう。

古来より「清濁併せ呑む」という言葉がある。また親鸞聖人は「宮商和す」と言われる。宮と商は音階のことで、本来は合わせると不協和音になる。ここに本当の強さがある。反対意見や、自分にとって不都合なことに向き合う柔軟性が問われるのである。

念仏の信心は別名、「金剛心」といい「柔軟心」ともいう。他者と関係を断ち切るような信心ではなく、むしろ関係を拓く信心ということだと受け止める。潔癖が潜む個人主義が大手を振る今日、今一度考えなければいけないのではないだろうか。

(山崎 哲記)

顧問のカレンダーに聞く

仏の救いの

はたらきが

私の声となった

お念仏

Our voices saying the Buddha-name nenbutsu is the Buddha's salvific working for our benefit.

私の口から出る念仏は、単なる声ではありません。その背景には自己中心で自我の計らいで生きているが故に、み教えになかなか領けない私に、念仏を手渡そつとする長い歴史が念仏であります。

具体的には、厳しくもある善き師に出遇うことであり、その師を縁とした聞法の力が自力無効を知らせ、自我を超える力となった時、南無阿弥陀仏の仰せが響くのではないのでしょうか。



うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舍願生偈)

今回は都内でオーガニックショップ(農薬や化学肥料に頼らない食品)を経営されている小林浩大さんにお話を伺いました。

主にプライベートで二年ほど前に私が上京してきた時からお世話になってる先輩です。

◆お仕事のきつかけは？

前職は訪問リハビリの仕事。仕事を通して、医療現場でお薬を飲み続けていく患者さんを見て、これは根本的な病気の治療になっていないのではないかと思いつき始め、病気になる前に原因があるのではないかと考えるようになり、それから、体の不調を内側から根本的に治療する東洋医学に興味を持ち、それに関連する研修に足を運ぶようになりました。

その中で、自分と似た考えの人とのご縁が増え、健康の土台づくりが大事であることに気づき、食品、調味料、化粧品、シャンプーなどにおいて、体に優しいものを作りたいと考える方法で生産されたものを作りたいと考えました。それによって健康の土壌が変わっていきつかけを作りたいと思いい、オーガニックショップの経営を始

めました。

◆「生老病死」という言葉に対して思うことは？

無意味に長生きしようとは思っていません。両親が医療関係で働く私の家庭では、「延命治療はしない」という考えがあります。「死ぬ時、そのタイミングを大事にしよう」と親から言われてきました。その中で、日々、悔しい、悲しい、嬉しい、腹立たしいといった感情を生きているという感覚を大事にしています。ただ、この言葉を聞いてかと思うことは、タイミングだとは言いつつ、今は死にたくないし病気になるたくないと感じます。充実した人生を送るには健康が欲しいですけど、それでも病気になるならへこみますね。

◆ご自身が20代の時と比べて、現代の20代の人ってどう見えていますか？

今年で37歳になるのですが、年齢時代はそこまで気にしていません。そのうえで思うことは、今の20代は誰かの役に立ちたいと存在意義を求めている人たちが多くて、感受性が豊かという部分で、エネルギーの高さを感じます。一言で、すてきだと思います。学ぶ

ことが多いです。学ぶという面では、自分たちの時代はどうしても根性論が強かったので、何事に対してもやると決めたら絶対にやり遂げるという責任に対する気合と根性は、もってあってもいいのかなと考えたりする時がありますね。

今回を通して、改めて浩大さんの謙虚な関心意欲に驚かされました。私自身も僧侶として、「何事からも学ぶ姿勢」を大切にしていきたいと思えました。



小林さんと聞き手

城西ブロック会聞法会

去る10月6日(日)、西徳寺「梅檀の間」にて聞法会を開催致しました。

聞法会では大谷顧問に法話を頂戴し、その中で「いのち」ということに触れていただきました。「いのち」と聞くと誰もが知っている言葉ですが、「私たちの思い描く「いのち」というのは、実に曖昧である」と仰いました。参加者の方からは「普段は考えたこともなかった」と、驚かれた様子の方もいらっしゃいました。

その後は希望者のみで懇親会を行い、賑やかな時間を過ごせました。聞法会が気になるという方は、担当大橋までお気軽にお問い合わせ下さい。

(担当：大橋 伊知郎 記)



城南ブロック会報告

10月13日、三茶しゃれなあどに於いて第110回聞法会を開催致しました。会員18名のご参加をいただき、「四苦八苦の出どころ」をテーマに皆様と学ばせていただきました。

私たちが日常生活を送っている中で、愛着・執着に自分自身が振り回されていることになかなか気付かないところから、「四苦八苦の出どころ」は、そんな私自身であることを学びました。聞法会後の懇親会では、終始にぎやかな雰囲気の皆様と楽しく過ごさせていただきました。

次回は、来年の2月9日(日)に、聞法会を開催する予定をしております。ご参加をお待ちしております。次年度から私、大谷隆が城南ブロック会を担当いたします。

(大谷 隆 記)



合唱団エコーが台東区合唱祭に出演しました

2011年より活動しております西徳寺混声合唱団「エコー」ですが、10月13日に浅草公会堂で行われた台東区合唱祭に出演いたしました。

ピアノはおなじみの金澤麻里子先生ですが、指揮は今年より鹿内芳仁先生をお迎えし、日本語の歌詞を大切にしながら、ご指導をいただき、今回は仏教歌「恩徳讃Ⅲ」と、童謡唱歌をメドレーで歌わせていただきました。

日頃触れている曲も大人が、しかも混声合唱で歌うとまた違った響きとなり、一同楽しい時間となりました。

(担当：高橋 淳 記)



参道修繕のお知らせ

只今、本堂大改修に向けて準備をしておりますが、先立って境内参道の修繕をさせていただきます。

車両の進入増加にともない、参道の敷石である御影石が割れたり、欠けたり、剥がれたりし、沈み込みにより参詣者が躓き、ケガをされる事態を招いております。また、以前より雨や雪により滑りやすいという状況でありました。

そこで来年早々に工事をさせていただくこととなりました。重量に耐え得るコンクリート敷きとする予定です。この工事費につきましては、平成29年より皆様にご協力いただいております「維持会費」より拠出する予定です。

工事中は車両進入および開門の制限が出ます。ご不便をおかけしますが何卒、ご了承ください。改めて工期予定を皆様にご案内致します。

西徳寺住職 山崎 哲



ランドマーク 上野駅13番ホーム 「PLATFORM13」

今月は東京の北の玄関口、上野駅を訪れました。

明治16年(1883年)に、現在の東北本線や常磐線などを運営していた日本初の民営鉄道会社、日本鉄道の駅として開業しました。寛永寺の子院跡であった約3万坪を、東京府より用地として借り受けたそうです。

大正12年(1923年)9月1日の関東大震災で初代駅舎が焼失し、その後は木造の仮駅舎で営業を続け、昭和7年(1932年)4月に、鉄筋コンクリート製の地上3階、地下2階、今の駅舎が建設されました。

昭和30年代から40年代にかけて、集団就職列車の終着駅となり、東北などから上京した人々にとっては、心の風景にもなっています。

以前は寝台特急列車などが出発していた上野駅13番線ホームが、今年の8月から「PLATFORM13」として開業しました。ホーム壁面にプロジェクターが設置され、映像作品などを放映する映像体感空間です。電車が好きな方にはおすすめです。



上野駅13番ホーム「PLATFORM13」



坊さんのツブヤイッター

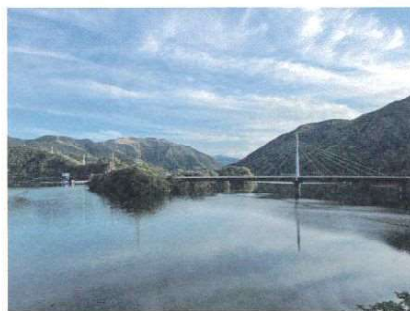
@イチー



先日、家族で丹沢湖までドライブに出かけました。そこには「三保ダム」があり、その周辺の景色は最高に良かったです。田舎出身ということもあってか、緑豊かな場所に来るととても落ち着きます。

しかし、その場所は、ダム建設によって湖底に沈んだ村があったということを知り、複雑な気持ちになる。全てが満たされる世界はないんやろなあ、ふと思われました。

#三保ダム #丹沢湖



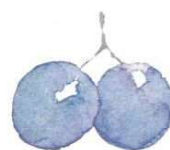
丹沢湖

えこお志お礼

板橋区 木下 順子 様

北区 小山 光子 様

江戸川区 形屋 顕弘 様



ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

内愚外賢

～賢者の信を聞いて、愚禿が心を顕す～

先月始めに祖母が101歳で亡くなり、京都でお通夜と葬儀を勤めてきました。思い返せば心配をかけ続け、世話になりっぱなしでありました。願われてある私である、そんなことは頭の片隅に追いやられ、自分勝手なその日暮らしをしておる自分に気付かされます。

今月表紙の上野駅。当時、地方から上京してきた人たちは故郷を思い出し、自分の原点を追慕されていたそうです。

忙しい日々を追われ、自分の足元、基礎を忘れがちな私たちであります。先立つ人、またその人が導く仏事すげにおいて、私の相が教えられるのだと改めて感じました。

久しぶりに親せきと顔を合わせる、これも亡き人が導く大切な機会だとも感じました。やはり儀式は大切です。

(編集長 仲井 真裕 記)



「あゝ上野駅」歌碑

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com

🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook